

拝啓 今年も早や6月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。わが家の玄関口にはパンジーのプランターを並べていたのですが、今年は12月に植えたパンジーが長持ちがして、抜くのがもったいなかったので、半分抜いてペチュニアに入れ替えました。

今回は新渡戸稲造先生の『人生雑感』の3回目「友会徒の社会的事業」という講演録から引用です。(5)のところに次のようにあります。

「この人(ジョージ・フォックス)の伝記をみると、自分の信じたことは必ずやるという主義、すなわち王陽明のやかましく言っているいわゆる知行合一、知ると言うことと、行うということと同じにする、行わなければ知ると言われぬという考えをもって、自分の善と信じたことを実行することを教えた。」

新渡戸先生には、このクエーカーの信仰(と陽明学の考え方)が深くしみ込んでいるのだと思います。

6月2日、3日と津山に出かけ、先日の理事会・評議員会で決めた新役員の中島壯太先生(中島病院理事長)、治郎丸清志さん他に引き継ぎの事務をしてきました。この2年間、最初はどうしてよいかわからなかった仕事が、集会所にするという方針が決まってからは、よい人びとに恵まれ、順調に進めることができたことは大きな感謝であり、振り返れば大きな楽しみでした。

6月3日は、帰り道岡山で下車し、久しぶりに後樂園を訪ね、その近所の老人ホームに入居されている原田元衛先生を訪ねました。原田先生は、山の楽しさを教えてくれた中学校の先生でした。厳しい先生でしたが、今91歳になってもずいぶん大勢の生徒から慕われています。この日も同級生だったクラスメート(女性)に声をかけましたところ3人が参加、一緒に昼食をしました。

6月9日は、本誌読者の佐藤昭夫さん達と5人で高尾山に登り、相模湖近くの千木良まで歩きました。梅雨の合間の晴天でよい山行でした。

6月10日は、毎年行っている多磨霊園に南原先生、矢内原先生、新渡戸先生、内村鑑三先生などのお墓参りで、今年は14回目でした。

6月14日、お香典返しの招待券で、竹芝栈橋そばのツキ・シュール・ラメールと言う高級レストランで、夫婦でランチを頂きました。雰囲気良かったせいか素晴らしい会話を楽しむことができました。来年は私たちの金婚式の年なので、昔行ったスイス(グリンデルワルド)に行こうかという話になりました。

まだしばらくは梅雨の時期、すぐ暑い夏がやってまいります。皆様もどうかお身体ご自愛のうえ、お過ごしください。

敬具

平成29年6月24日

山口周三

エンカウンター of 読者各位